

令和4年度 社会科 3年歴史 年間指導計画・評価計画

< 1 > 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

< 2 > 歴史的分野の目標

- (1)我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2)歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3)歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするものの大切についての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

< 3 > 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解しているとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

< 4 > 観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。(80%以上)
	B	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	C	努力を要する状況である。(50%未満)

評 定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度の高いもの。(90%以上)
	4	十分満足できる状況である。(80%以上)
	3	おおむね満足できる状況である。(50%以上)
	2	努力を要する状況である。(50%未満)
	1	一層努力を要する状況である。(20%未満)

< 5 > 指導上の配慮事項

- ①思考力・判断力・表現力の育成。→生徒の言語活動を充実させる指導。
- ②自主的・自発的な学習の促進。→体験的な学習や問題解決的な学習。 発展的な学習
- ③学習の見通しを立てたり、振り返ったりする学習。
- ④個に応じた指導の充実。→ 個別指導 グループ別指導 繰り返し指導
生徒の興味・関心に応じた課題学習 コンピュータを活用した学習 補充的な学習

社会科 3 学年 歴史的分野 年間指導計画・評価計画

【評価の観点】知識・技能＝知技、思考・判断・表現＝思判表、主体的に学習に取り組む態度＝態度

月	主な学習内容	学習目標	評価規準の例
	第一次世界大戦 ヨーロッパ諸国の対立 第一次世界大戦	・第一次世界大戦を、起こった背景、経過、被害などを通して理解する。	・第一次世界大戦の背景・経過・結果や影響から、戦争の概要を理解している。 (知技)
	ロシア革命 ロシア革命 シベリア出兵とソ連の成立 独裁と計画経済	・ロシア革命の背景と経過、その後のロシアの歩みについて理解する。 ・ロシア革命について、当時の状況を考察し、表現する。	・ロシア革命の背景と経過、計画経済について理解している。 (知技) ・ロシア革命に対する日本の動きを理解しロシア革命の様子を考察し、表現している。 (思判表)
	国際協調の高まり ベルサイユ条約と国際連盟 国際協調の時代 民主主義の拡大	・国際連盟の特色を、世界平和と国際協調の面から理解する。 ・大戦後の欧米諸国の国際関係の変化を、大戦の反省などに着目して考察し、表現する。	・国際連盟の抱えた課題や問題点や、ヨーロッパの変化を理解している。 (知技) ・大戦後の国際協調や民主主義の動きを大戦の規模や犠牲者の数などと関連付けて考察し、表現している。 (思判表)
	アジアの民族運動 第一次世界大戦と日本 中国の反帝国主義運動 朝鮮の独立運動 インドの民族運動	・アジアにおける民族運動が高まった理由について、第一次世界大戦との関係に着目して考察し、表現する。	・アジアにおける民族運動が高まった理由を、ベルサイユ条約の内容と関連付けて考察し、表現している。 (思判表)
	大正デモクラシーと政党内閣の成立 第一次護憲運動 大戦景気と米騒動 本格的な政党内閣の成立 大正デモクラシーの思想	・大正デモクラシーについて、護憲運動や普通選挙の実現を通して理解する。 ・政党内閣やデモクラシーの思想について、現代と比較しながら考察し、表現する。	・大正デモクラシーについて、思想や動きの概要を理解している。 (知技) ・大正デモクラシーの思想を現代と比較して考察し、表現している。 (思判表)
	広がる社会運動と男子普通選挙の実現 社会運動の広がり 差別からの解放を求めて 女性による運動 男子普通選挙の実現	・デモクラシーの高まりなどの影響を受け、多くの民衆運動が盛んになったことを理解する。	・普通選挙の実現などについて、運動の概要を理解している。 (知技)
	新しい文化と生活	・大正期の教育と文化について理解する。	・関東大震災の概要と、大正期の教育と文化の特徴を理解している。 (知技)

	教育の広がり メディアの発達と文化の大衆化 新しい思想や文化 都市の生活	・市民生活の変化を通して、文化の大衆化などを考察し、表現する。	・市民生活の変化を通して、文化の大衆化などを考察し、表現している。(思判表)
	世界恐慌とブロック経済 世界恐慌の始まり ニューディール ブロック経済	・世界恐慌の概要と、欧米諸国の対応について理解する。 ・世界恐慌が発生した理由を、資本主義経済の仕組みに着目して考察し、表現する。	・世界恐慌の概要と欧米諸国の対応を各国別に理解している。(知技) ・世界恐慌の原因を資本主義経済の仕組みと関連付けて考察し、表現している。(思判表)
	欧米の情勢とファシズム ファシズム イタリアのファシズム ドイツのファシズム	・イタリアとドイツで台頭してきたファシズムの実態について理解する。	・ファシズムの台頭の様子について理解している。(知技)
	昭和恐慌と政党内閣の危機 政党政治の進展と行きづまり 昭和恐慌 難航する外交	・日本の政治の流れを、世界の動きと関連させながら理解する。 ・世界恐慌の日本への影響と、政党政治の行き詰まりについて、資料から考察し、表現する。	・世界の動きと関連させながら、日本の政治の流れを理解している。(知技) ・政党内閣が信頼を失っていった理由を考察し、表現している。(思判表)
	満州事変と軍部の台頭 満州事変と日本の国際的な孤立 軍部の発言力の高まり 経済の回復と重化学工業化	・満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解する。 ・国民の困窮や軍部の主張などについて、当時の日本の状況を考察し、表現する。	・満州事変から国際連盟脱退までの経緯を理解している。(知技) ・軍部の主張や国民の生活を捉え、当時の状況から、日本の進路について考察し、表現している。(思判表)
	日中戦争と戦時体制 日中戦争の開始と長期化 強まる戦時体制 皇民化政策	・日本の中国侵略の実態とそれに対する中国民衆の動きや国内の状況を、資料を通して理解する。	・日中戦争の経過や、国民生活が統制された状況を理解している。(知技)
	第二次世界大戦の始まり 大戦の開始 戦争の拡大 ドイツの占領政策	・ヨーロッパで戦争が起こり、拡大していった経緯を理解する。 ・ドイツやイタリアと同盟を結ぶなど、日本が取った行動について、国際的な視野で考察し、表現する。	・ヨーロッパで起こった戦争の様子を地図や写真から読み取り、原因や経過を理解している。(知技) ・日独伊三国同盟を結んだ日本の行動について、国際的な視野を踏まえて考察し、表現している。(思判表)
	太平洋戦争の開始	・日本が太平洋戦争に向かった理由を、国力の差や資源の分布、占領し	・日本が太平洋戦争に向かった理由について、日米の国力差や資源の量、占領し

	日本の南進 日米交渉の決裂 太平洋戦争の始まり	た地域に着目して考察し、表現する。	た地域と関連付けて考察し、表現している。(思判表)
	戦時下の人々 国民の動員 植民地と占領地 総力戦と犠牲者	・戦争の長期化とともに、国民生活が統制されていく様子を理解する。	・日本国内のみでなく、植民地や占領地における状況を理解している。(知技)
	戦争の終結 イタリアとドイツの降伏 空襲と沖縄戦 日本の降伏	・イタリア・ドイツの降伏、沖縄戦から原爆投下などを通して、戦争終結までの経緯を理解する。 ・戦争の被害の実態を通して、国民の苦しみについて考察し、表現する。	・イタリア・ドイツの降伏、沖縄戦、原爆投下などの戦争終結までの概要を理解している。(知技) ・戦争と国民への影響について考察し、表現している。(思判表)
	占領下の日本 敗戦後の日本 国民の苦難 占領の始まりと非軍事化	・敗戦後の日本がどのような状況であったか、また、どのように占領されたのかを考え、表現する。 ・敗戦後に国民たちが苦難の生活を送る中、日本が占領下に置かれ、改革が始まったことを、闇市やマッカーサーと昭和天皇の資料などを通して理解する。	・終戦後の日本国民が苦難の生活を送る中で、GHQ が非軍事化などの新しい日本につながる占領政策を進めたことを理解している。(知技) ・終戦後の日本の様子や GHQ による占領政策を、国民生活に着目して考察し、表現している。(思判表)
	民主化と日本国憲法 民主化 日本国憲法の制定 政党政治と社会運動の復活	・新しい憲法の制定で、民主的な国家が建設されたことを理解する。 ・新しい憲法の制定による日本の変化を、大日本帝国憲法との比較を基に考察し、表現する。	・新しい憲法の制定で民主的な国家が建設されたことを理解している。(知技) ・新しい憲法の制定による日本の変化を大日本帝国憲法との比較から考察し、表現している。(思判表)
	冷戦の開始と植民地の解放 国際連合と冷戦の始まり 新中国の成立と朝鮮戦争 植民地支配の終わり	・冷戦によって新たな国際体制が誕生したことを理解する。 ・冷戦による国際体制が成立した理由を、アメリカとソ連の動向に着目して考察し、表現する。	・資本主義と共産主義が対立する中で冷戦が発生し、国家の分裂や、植民地支配の終結など、新たな国際体制が生まれたことを理解している。(知技) ・冷戦という新たな国際体制の成立と影響を、アメリカとソ連の動向を基に、考察し、表現している。(思判表)
	独立の回復と 55 年体制 占領政策の転換 平和条約と安保条約 自民党長期政権と安保条約改定	・日本がどのような背景で国際社会に復帰したかを理解する。 ・日本がこの時期に国際社会に復帰できた理由を、国際情勢と関連付けて考察し、表現する。	・冷戦によってアメリカの占領方針が転換し、日本が資本主義国の一員として国際社会に復帰し、アメリカとの関係を重視した安定政権が生まれたことを理解している。(知技) ・冷戦が激しくなる中、資本主義陣営の強化を目指したアメリカが日本の独立を認

			めたことを考察し、表現している。 (思判表)
	緊張緩和と日本外交 緊張緩和の進展 広がる日本の外交関係 沖縄の日本復帰	・戦後日本外交の変化を、世界と日本の動きの資料などを通して理解する。 ・日本が中国など共産主義国とも外交関係を作れた理由を、世界と日本の動きの資料を基に考察し、表現する。	・戦後の日本外交や沖縄の復帰が、緊張緩和の中で、東側諸国との関係構築の上で進んだことを理解している。(知技) ・日本の外交関係の変化を、緊張緩和と関連付けながら考察し、表現している。(思判表)
	日本の高度経済成長 高度経済成長 国民生活の変化と公害 経済大国日本	・日本が高度経済成長を遂げ、国民生活が変化したことを理解する。 ・経済成長による日本の変化を GDP の変化や公害の様子などを基に国内外の面から考察し、表現する。	・経済成長と技術の向上によって、国民が豊かな生活を送れるようになった一方で、公害等の問題が発生したことを理解している。(知技) ・日本の経済成長が国内外で功績と軋轢を生んでいることを考察し、表現している。(思判表)
	マスメディアと現代の文化 戦後の文化とマスメディア テレビと高度経済成長期の文化 漫画・アニメと文学の発展	・日本のマスメディアが発達し、国民生活に浸透したことを理解する。 ・マスメディアによる文化の普及と国民生活との関係を考察し、表現する。	・マスメディアが社会の発展とともに変化し重要な文化となったことを理解している。(知技) ・テレビ放送やアニメなどの技術が進歩することで、マスメディアが国民生活に深く関わるようになったことを考察し、表現している。(思判表)
	冷戦後の国際社会 冷戦の終結 国際協調への動き 相次ぐ地域紛争	・冷戦終結と、その後の国際協調や地域紛争の動きについて理解する。 ・冷戦終結後の世界の課題がどのような特徴をもっているのか国家の関わり方に着目して考察し、表現する。	・冷戦が終結し、国際協調による地域統合が進む一方で、国家を超えた紛争が多発していることを理解している。(知技) ・冷戦終結後の世界で、国家の枠組みを超えた問題が発生していることに着目して考察し、表現している。(思判表)
	冷戦後の日本 冷戦後の日本外交 55 年体制の終わり バブル経済崩壊後の経済	・冷戦後の日本の課題について理解する。 ・冷戦終結後の日本の課題を、その原因や現在の問題と関連付けて考察し、表現する。	・冷戦後の日本の課題が、対外的には他国との歴史的関係の中から、国内的には経済的な好景気の反動により発生していることを理解している。(知技) ・冷戦後の日本の課題の原因が過去にあり、現在でも続いていることを考察し、表現している。(思判表)
	持続可能な社会に向けて 進展するグローバル化 日本社会が直面する課題 持続可能な社会	・現在の日本の課題を捉え、SDGs と関連させて、どのように解決すべきかを考察し、表現する。	・現在の日本の課題を SDGs と関連させてどのように解決すべきかを考察し、表現している。(思判表)